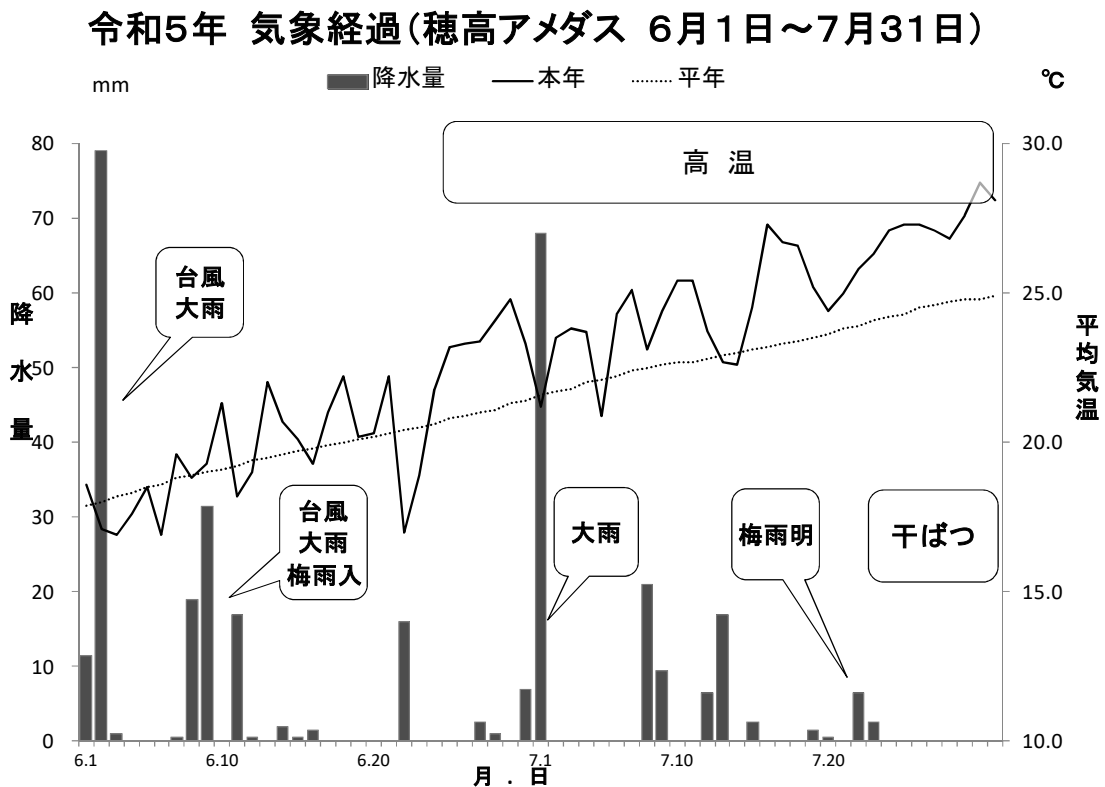


令和5年 作物技術普及情報 第12号

水稻の生育状況・収穫開始予測・水稻の高温対策 大豆の干ばつ対策等 について

1 気象状況



6月下旬以降は高温が続いています。局地的に雷を伴う降水はありますが、7月22日の梅雨明け以降は高温干ばつとなっています。

今後も晴れの日が多く、平年より高温が予想されています。また気象庁から「高温に関する早期天候情報」（7月31日付）が出されており、8月6日頃からかなりの高温が予想されています。

2 水稻の生育状況について

6月下旬以降の著しい高温の影響で、生育はかなり進んでいます。定点圃場の調査では、あきたこまちの出穂期は7月22日で平年より5日早でした。またコシヒカリの出穂期は8月2日で平年より6日早でした。以上から生育は5～6日程度進んでいると思われます。

8月1日現在、現地の平坦地の早生品種（あきたこまち、美山錦等）は穂揃い～傾穂期です。4月末～5月初旬植のコシヒカリは穂揃い期、5月上旬植のコシヒカリは出穂期、5月中旬植のコシヒカリは出穂始め～出穂期を迎えています。

出穂が早まっているため、成熟期も平年よりかなり早まることが予想されます。

安曇野市 豊科 標高550m 5月15日植(稚苗)の場合									
コシヒカリ 稚苗	DVI	幼穂長 2mm の実測日	幼穂長 10mm の予測日	出穂期 の実測日	あきたこまち 稚苗	DVI	幼穂長 2mm の実測日	幼穂長 10mm の予測日	出穂期 の実測日
本年	0.967	7月13日	7月20日	8月2日	本年	1.093	7月3日	7月10日	7月22日
平年	0.897	7月16日	7月23日	8月8日	平年	1.004	7月5日	7月13日	7月27日
平年差	6日早				平年差	5日早			

注) 幼穂長2mm = 幼穂形成期

注) 幼穂長2mm = 幼穂形成期

3 水稻の刈り取り開始予測

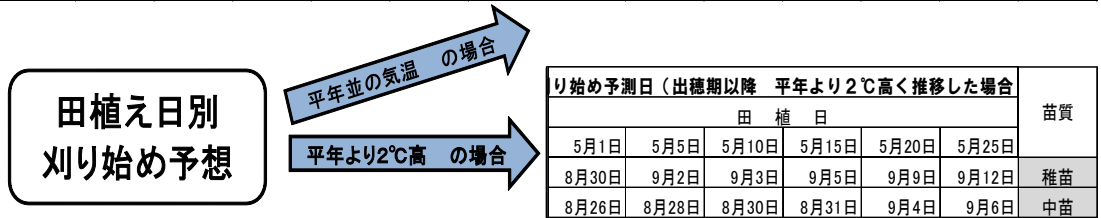
出穂がかなり早まっており、平坦地・4月末～5月初旬植のコシヒカリの刈り取り開始時期は、9月初旬からが予想されています。また早生品種の刈り取り開始時期は8月下旬からが予想されています。

今後も高温が予想されていますので、刈り取り開始予測の「高温版」も活用いただき、施設稼働の計画や収穫計画にご活用ください。

標高別・移植日別の詳細は「8月1日現在の水稻刈り始め予測(平年並み版、高温版)」をご覧ください(ホームページにも掲載いたします)

【表は豊科定点圃場:標高540mの推定値(8月1日現在)です】

コシヒカリ 標高550m	苗質	推定出穂期						刈り始め予測日(出穂期以降 平年並みの気温)						苗質
		田植日						田植日						
		5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日	5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日	
稚苗	7月28日	7月30日	7月31日	8月2日	8月5日	8月8日	9月3日	9月6日	9月7日	9月10日	9月14日	9月18日	稚苗	
中苗	7月24日	7月26日	7月28日	7月29日	8月1日	8月3日	8月30日	9月1日	9月3日	9月5日	9月9日	9月11日	中苗	



4 いもち病、カメムシ対策について

- 高温が続き、降水も少なく干ばつ状況が続いています。このため、いもち病の発生は平年より少ない状況ですが、常発地帯・多発したことのある圃場、苗箱剤の未使用圃場、直播圃場等では、圃場をよく観察していただき発生状況によっては防除対策を講じてください。
特に昨年穂いもちが発生した圃場は要注意です。

- カメムシ防除として以下の点にご留意いただき、防除の徹底をお願いします。

(1) 本田防除が最も重要です。散布適期は出穂10日後です。粒剤は効果の発現まで時間がかかるので、出穂7日後を目安に散布してください。

今年は出穂期がかなり早まっていますので、防除のタイミングを失しないようにお願いします。

この防除でアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の本田定着及び幼虫の増加を防止し、アカスジカスミカメの成虫の本田侵入を防止します。

- (2) 斑点米カメムシ類は、稲の出穂以前は畦畔や休耕田等で生育・増殖します。畦畔の草刈はすでに実施されていると思いますが、出穂期以降の草刈は水田にカメムシを追い込むので避けてください。

5 高温登熟障害対策について

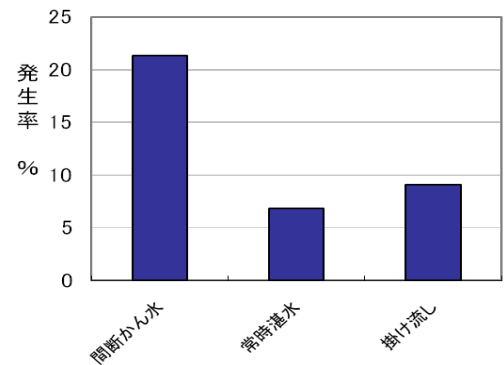
向こう1ヶ月の気温は「平年より高い」と予想されており、今年は高温登熟障害対策に注意をはらう必要があります。

これからのポイントは「出穂前後3週間の湛水」です。出穂から2～3週間が高温で経過（高温登熟）すると、白未熟米や胴割米の発生しやすい体質になります。

高温登熟による白未熟米、胴割米の発生防止のため、出穂前後3週間は、圃場に水が入っている状態としてください。

水路に水が十分あり、生育が遅れる恐れがなければ、昼～夕方に4時間程度の掛け流しもお検討ください。

土壤水分を確実に保持し、根の老化防止と健全な登熟をはかるため、水管理の徹底をお願いします



水管理と白未熟の関係(2010年、農業試験場)
注) 品種あきたこまち。発生率は水口区、水尻区の平均。
湛水処理は出穂前後2週間の常時湛水、掛け流しは出穂後2週間の掛け流し。

6 大豆の干ばつ対策について

大麦後大豆は概ね7～5葉、小麦後大豆は概ね5葉～2葉期です。生育は概ね順調で、湿害圃場も少ないですが、現在高温干ばつとなっており、干ばつによる生育障害の恐れが高くなっています。

これから干ばつの影響を受けやすい開花期を迎えるので、葉のしおれに注意し、しおれが目立つ場合、入水可能な圃場では灌水を実施するようにお願いします。

灌水にあたっては、以下の点にご注意下さい。

- ・ 灌水は、圃場の一部で上位葉の反転が始まったら行う。
- ・ 灌水は、葉数が4～5葉以上に生育した圃場で行う（生育量が不十分な場合は湿害のおそれがあるので、生育が進んでからかん水する）。
- ・ 灌水は、用水が十分にあり、茎疫病等の立枯れ性病害が発生していない圃場で行う。
- ・ 灌水にあたっては、ほ場周囲の額縁明渠や補助明渠、大豆の畦間等を活用し、水が速やかに圃場に行きわたるように行う。
- ・ 圃場全体が滞水するような灌水をすると、茎疫病の発生を助長することがあるので、圃場の3分の2程度に水がついたら、水を止め、滞水しないようにする。
- ・ 灌水は、昼間の暑い時期は避け、夕方以降に入水する。

また、今後の天候によっては、まとまった雨が期待できない状況になることも考えられます。

その場合は、葉がしおれていなくても、水分ストレス回避のために灌水した方がよいと思われますので、ご検討下さい。

7 そばについて

高冷地を除いた平坦地では、7月末から播種作業が始まっています。そばも湿害を受けやすい作物なので、必ず湿害対策を行うようにお願いします。

播種から開花期までの約1か月間は、そばの出芽～初期生育を揃え、生育を良好にするために最も重要な時期です。

圃場内で出芽ムラを生じさせずに、均一な出芽とすることが重要になりますので、下記の点についてご注意ください。

- 播種までに2回程度、丁寧な耕起を行い、圃場の雑草や前作の残渣を埋没させてから播種するようにお願いします（耕起が荒すぎると出芽ムラが生じやすくなります。また埋没できなかった雑草が再生して雑草害を生じることもあります）。

- そばの出芽・初期生育を揃えるため、適切な深度で播種し、鎮圧するようにお願いします（播種深度が深すぎると出芽までに時間を要するため、出芽ムラを生じやすくなります。また浅すぎたり、鎮圧が不十分だと干ばつ時に種子への水分供給が不十分になり、出芽ムラを生じやすくなります）。